

第35回 茨城県移動性・安全性向上委員会 議事要旨

開催日時 令和7年2月10日(月) 13:00~15:00

開催場所 常陸河川国道事務所 2階 会議室 E・F・G

<議事等>

1. 移動性関係議題について
 - 1-1 これまでの検討経緯と今回の論点
 - 1-2 主要渋滞箇所の今後の取扱いに関する提案
 - 1-3 渋滞対策に向けた取り組み
 - 1-4 TDM施策
2. 安全性関係議題について
 - 2-1 これまでの検討経緯
 - 2-2 第34回委員会における主な指摘事項と対応
 - 2-3 合同現地診断結果報告
 - 2-4 事故危険区間の対策完了(卒業)判定
 - 2-5 生活道路の交通安全対策検討
 - 2-6 今後のスケジュール



<主な意見>

1. 移動性関係議題について

1-2 主要渋滞箇所の今後の取扱いに関する提案

- 委員長** ○ (仮称) 二三成橋交差点が渋滞ポイントと認識があまりない。その先の山王交差点は渋滞・事故ポイントになっていないのか。
- 事務局** ○ 山王交差点は、主要渋滞箇所にはなっていない。また、事故危険区間にも判定されていない。
- 委員** ○ モニタリング手法の改善によって指標に該当するようになった箇所と該当しなくなった箇所について、アンケート結果との齟齬に差があるが、その見解は。
- 事務局** ○ 道路利用者の主観が入っているためだと考えられる。数時間の渋滞が印象に残ってしまっていると考えられる。
- 委員** ○ モニタリングの客観的なデータは必要だが、アンケートの主観的でローカルの人々とのコミュニケーションも重要だと思う。引き続きアンケート結果からの判定解除を補足的に行う方針は良いと思う。
- パブリックコメントがH24で最後となっているが、今回の改善手法で再度実施することは検討していないのか。
- 事務局** ○ 上部機関とも相談の上、ご意見を参考に検討していきたい。
- 委員長** ○ 今後のモニタリング手法の運用について承認する。

1-3 渋滞対策に向けた取り組み

委員 ○ 時間信頼性の分析は、今回のような数キロの短区間の評価に用いるのが適切か、検証が必要と考える。

事務局 ○ ご意見を参考に評価していきたい。

委員 ○ 分析では効果が出ていたと認識していたが、アンケートでは渋滞している意見があったため、長期的な観点で見て行く必要があると思う。時間信頼性の分析から、速度差が大きいと、安全性は気を付ける必要があると思う。対象路線は、2車線と4車線と変化するため、速度差が出ていると推察される。範囲を広げて今後検討する必要があると思う。

1-4 TDM施策

委員長 ○ ETC2.0 プローブデータのみでは正確な OD が分からない。データ提供で共創プロジェクトにどこまで貢献できるか知恵を出していくことが必要である。

○ 住民が本当に行きたい方向にバス路線等の公共交通サービスが提供されているかなどの検証も必要だと思う。

○ アンケートは、政策バイアスを排除した客観的なデータを取れるような努力も必要である。

○ 令和7年度からの日立市との連携は本格的に進めていくのか。

事務局 ○ 日立市にも本委員会のオブザーバーに参加して貰うことも検討して進めていきたい。

委員 ○ 交差点解析結果の「交通容量に支障はなく」という表現はどういう意味か。

事務局 ○ 交差点需要率や交通容量比が基準範囲内で問題ないという意味である。交差点単体でみた場合に、交通量（需要）に対して問題ないということである。

委員 ○ データ提供だけでなく、国と日立市で TDM が一大プロジェクトとして実施できるような議論ができるとよいと思う。

委員長 ○ 交通容量は、左折レーンを設置した場合にどうなるかは確認が必要だと思う。

事務局 ○ ご意見を参考に検討していきたい。

参考資料

委員長 ○ 令和6年ゴールデンウィークの一般道路の交通状況について、GW 以外の日常はどうなっているのか。

事務局 ○ 今回の結果は、GW 期間中のみであり、日常の渋滞状況は入っていない。外国人観光客等の観光需要が増えている中で、今回は GW 期間中の渋滞状況を分析したものである。

委員 ○ ひたちなか市・大洗町の国道51号塩崎交差点では、ひたちなか方面へ向かう右折の渋滞が激しい印象である。手前に看板を設置する等の対策が必要だと思う。

事務局 ○ ご意見を参考に現地確認も含め、今後検討していきたい。

2. 安全性関係議題について

2-1 これまでの経緯

○ 特になし。

2-2 第34回委員会における主な指摘事項と対応

一般国道4号古河市大堤交差点について

- 委員** ○国道4号大堤交差点は、短期・中期・長期で対策するのは良いが、長期的に見た時に、大堤交差点だけでなく、開発予定地のあり方や出入り交通をどうするかなど、一体のエリアがどうあるべきかを考えた方が良い。
- 委員** ○交差点立体化の計画は、昭和40年代からあり、周辺都市開発を想定したものではないため、立体化してしまうと開発地へのアクセス等の新たな問題が出てくる可能性がある。そのため、エリア全体で対策をどうするか考えていきたい。
- 委員長** ○南北方向に都市計画道路の新設を予定しているが、国道354号に更に負荷がかかることが予想される。
- 委員** ○都市計画道路は南北方向の交通の分散化を図り、国道4号の渋滞を緩和させる効果も想定できる。
- 委員** ○都市計画道路は、現在の都市計画決定としては、宇都宮方面から国道354号までの計画であるため、更に東京方面へ延長する計画は、まだ市で構想している段階である。また開発予定地についても、最近計画を検討している状況であるため、開発には長い年月がかかることが想定される。開発を行うのであれば、大堤交差点も含め、道路交通をどのようにしていくかを議論していきたい。また、短期対策については現在協議中であり、国・県・市で協力してやっていきたいと考えている。

一般国道408号つくば市春日3丁目交差点について

- 特になし。

2-3 令和6年度合同現地診断結果について

- 特になし。

2-4 事故危険区間の対策完了（卒業）判定

- 委員長** ○既に対策完了（卒業）した区間で、近年、事故が増えている区間がないか確認する必要がある。また、対策完了できなかった区間については、対策内容も含め引き続き検討していく必要がある。

2-5 生活道路の交通安全対策検討

- 委員長** ○生活道路対策では、ハンプが対策の中心になっているが、次のステップとして、ガードレールを用いて幅員を狭める対策はどうか。
- 事務局** ○狭さく等の設置による幅員を狭める対策は、地元の方々の理解を得るのが難しいと聞いている。今回はハンプにすることで、地元の方々の理解が得られたため、導入実験を実施したと聞いている。

2-6 今後のスケジュール

- 特になし。

以上